

（４）一時預かり業務、その他自主事業計画

1. 一時預かり業務

一時預かりは、毎日保育園に通う子どもたちと違い、家庭で子育てをしている養育者が、一時的に利用することが多いので、常勤・非常勤のスタッフとなる保育士に対し独自の研修を実施します。

■一時預かり促進策

1) 隣接施設のイベント連動

西日本総合展示場、A I M内会議場、国際会議場で行われる各種事業の申し込み案内に、必ず託児施設として、子育て支援プラザの案内を入れてもらうように働きかけます。

これらの施設で行われる企業展示会やフェア、学会、講演会、セミナーなどは、まったくと言ってよいほど乳幼児を抱えた世代への配慮がなく、表面化しない社会参加障壁となっているように思われます。

上記施設のあらゆる催事で、障害者への配慮が為されるように、子育て世代への配慮の必須事項として支援プラザの託児案内を明記してもらうようにします。

この場合の託児は、事前申し込みを前提とします。

2) 放送大学北九州サテライトセンターと連携

試験時（前期、後期）や集中面接授業時に一時預かりを行うことで、子育て中の親の生涯学習支援を行います。

また、さらに放送大学北九州サテライトセンターとの連携を強めることで、子育て中の親が子育て支援プラザを利用して、放送大学の授業が受講できるしくみを模索します。

■「ほっと子育てふれあいセンター」との連携

センターと協議して、子育て支援プラザを預り場所として使えるようにしておきます。

託児には預り数の限界があるため、託児定員を超えた申し込みがあった場合には、ほっと子育てふれあいセンターにながようにします。

託児依頼者は、センターのスタッフから「ほっと子育て」の仕組みの説明を受け、利用会員になっていただくこととします。

ただし、利用会員の正式登録と託児受付が一度で済むように、電話での仮登録を可能にするなど、安全を確保しつつ、利用しやすい制度の見直しが必要となります。

2. 売店業務（二施設）

子どもの館の直営店は、人件費、地代を考慮すると200万以上の赤字になっているため、大幅に減免した家賃で出店誘致しても、現状より改善になると思われず。

一方、魅力ある出店では、それ自体に集客力があり、その店目当ての来場者も期待できます。

そのような店舗で、かつ、子ども・子育てに関心の深い企業等に敷金なし、減免した家賃で出店を誘致します。

1) クレヨンハウス（第一候補）

東京 青山の「クレヨンハウス」（落合恵子さん主宰）の支援プラザ支店、子どもの館支店を誘致します。

子ども、女性問題、文化、生活に対しての、本、おもちゃ、生活雑貨のこだわりは非常に高いと思われず。

雑誌「クーヨン」は幅広く、深い視点で子ども、子育て、女性の生き方について書かれており、熱狂的なファンも多く、現在、東京、大阪に店舗があり盛況で、ここを目指して地方からわざわざ上京、上阪する子育て中の親も少なくありません。

どちらも、オーガニックレストランを併設しており、子どもの館では厨房も含めて一括委託も考えられます。

集客力、コンセプトとも申し分ないため、大幅減免して誘致したいと思っています。

2) 市内生協（第二候補、第三候補）

グリーンコープ、エフ・コープの2大生協のどちらかに、子どもの本とおもちゃを中心にしたパイロットショップを両館同時に出店してもらうよう考えています。

両生協とも、食、子どものおもちゃや本にはこだわりがあり、共同購入では良質のものを提供しています。

また、両生協とも、子育てネットワークや子育て支援団体などに、積極的な支援をしており、両館のコンセプトに通じる企画を長期にわたって実施してきた実績があります。

2館同時の出店は、パイロット事業としてインパクトがあり、各々東部・西部の駅ちかくの拠点となるため、利用者の利便性が高いものと思われず。

これらの店舗は、両館の企画事業と連携し、講演者書籍、展示会（おもちゃ等）の物販などのキャンペーンを協働で張ることができます。

さらには、共同購入カタログと一緒に、両館店舗の企画チラシを入れてもらうなど、集客効果も見込めます。

地元団体の応援という点からも、大幅減免して誘致することを考えています。

食へのこだわりも強いので、生協側に意欲があれば、子どもの館の厨房も一括委託したいと思っています。

3. 飲食業務

子どもの館ではイベント広場後方の飲食コーナー、支援プラザではパパママカフェを対象に、市民活動との連携を考えます。

小倉北区の女性起業支援コーディネートのNPO「ヴィーナスワン」と協働し、テナントスペースを活用して起業してもらうことを考えています。

また、その際には小規模作業所の手づくりパンなどの販売も検討してもらおうと思っています。

ただし、売店業務の委託先が、飲食出店に意欲的であれば、そちらを優先することとします。

1) 子どもの館

イベント広場後方をカフェテリア方式の飲食コーナーとします。

開店は、休日のみを原則とし、出店者の意向があれば、16:00～20:00の時間帯の開店も検討します。

テナントスペースとしては、以下の二種。

①カフェテリア厨房 1店舗 2000円/日×開店日数 年単位の契約とします。

調理した飲食を提供できる。

②カフェテリアワゴン 4店舗 1000円/日×開店日数 2ヶ月単位の契約とします。

コーヒー等の販売と、パン、調理済みの弁当等を持ち込み販売。

2) 支援プラザ

パパママカフェをカフェテリア方式の飲食コーナーとします。

開店は、来場者状況を見て変更していきます。

当面、休日、平日とも10:00～15:00開店とします。

テナントスペースとしてはカフェテリアワゴンのみ。開店時間が少ないので子どもの館より低額とします。

○カフェテリアワゴン 2店舗 500円/日×開店日数 2ヶ月単位の契約とします。

コーヒー等の販売と、パン、調理済みの弁当等を持ち込み販売。

4. その他の自主事業

1) フリーマーケット

子どもの館では年に6回、支援プラザでは年に4回定例開催します。
 参加費は、現状の子どもの館と同じ1出店1000円とします。
 館の事業としては、収益性の高いものではないが、市民活動支援と集客力が高いため実施します。

2) 出版事業

■独自出版

①報告書

子どもの館、支援プラザ両館のモデル事業、研究事業の成果を報告書として製本します。
 1000冊20万円程度で製本でき、市内行政機関には無償配布しますが、他の地方自治体や企業、市民団体には、1冊700円～1000円程度で販売します。

報告書作成予定

年 度	子どもの館		子育て支援プラザ	
	発行誌	収入額	発行誌	収入額
H17年度			1冊	32,000円
H18年度	3冊	240,000円	1冊	32,000円
H19年度	6冊	960,000円	1冊	80,000円
H20年度	9冊	1,440,000円	1冊	80,000円

②有料ブックレット

無償配布のブックレットで好評のものの内容を充実させて有料ブックレットとします。
 子どもの館、支援プラザ両館の日常の活動の中から得られたノウハウをブックレットとして出版します。
 2色印刷機と製本機で1冊20円ほどの原価とサポーターの活躍で作り、1冊300円～500円で販売します。
 初版は、編集コストがあり採算性は悪いが、販売冊数が増えるに連れ、高収益の事業となります。
 100～200冊が損益分岐点となります。

ブックレット作成予定

年 度	子どもの館		子育て支援プラザ	
	発行誌	収入額	発行誌	収入額
H17年度			0冊	0円
H18年度	3冊	90,000円	0冊	0円
H19年度	6冊	360,000円	3冊	180,000円
H20年度	9冊	540,000円	3冊	180,000円

③書籍出版

報告書、ブックレットの中から書籍化の要望の強いものを書籍刊行します。

書籍刊行予定

年 度	子どもの館		子育て支援プラザ	
	発行誌	収入額	発行誌	収入額
H17年度			0冊	0円
H18年度	0冊	0円	0冊	0円
H19年度	1冊	800,000円	1冊	50,000円
H20年度	3冊	2,300,000円	1冊	50,000円

■出版支援

市民団体からの持ち込み企画を、ブックレット、書籍として出版します。
 編集は、市民団体が行い、両館が発行元となります。
 ブックレットは、市民団体の印刷支援の枠で作成し、販売協力します。
 販売収入の20%を販売手数料としていただくこととします。
 ブックレットで好評を博したり、非常に良い企画があれば、独自出版の予算を使い、共同出版するものもあります。

3) 農産物販売

「子どもの館事業の田んぼの楽校」でできた農産物を、フリーマーケットやワゴンで販売します。
 最終的な、自主運営を目指して2年目以降のチームは、農地借り上げと農業指導分を目標にしています。

4) 講師派遣

市内外の行政、企業、市民団体にスタッフを講師派遣します。
 講師料は、本事業の収入とし、スタッフには講師手当を支給します。
 1回の講師料は、平均3万円、手当1万円と設定。

年 度	子どもの館		子育て支援プラザ	
	回数	収入額	回数	収入額
H17年度			0回	0円
H18年度	2回	60,000円	3回	90,000円
H19年度	8回	240,000円	12回	360,000円
H20年度	30回	900,000円	30回	900,000円

(5) 関係団体等との連携計画

テーマ別支援

①館内のほっと子育てふれあいセンター、育児相談センターとの連携

同じ子育て支援プラザ内での連携については、月2回の休館日の運営全体会議と2週に1度程度の企画ミーティング、随時の相談連携ミーティングで、情報共有をはかり、管理運営、事業内容へフィードバックしていくこととします。

- ・互いの業務運営の面で、課題、改善向上策はなにか
 - ・来館者に伝える企画内容の情報共有は充分か
 - ・相談内容から必要だと考えられる企画はなにか
 - ・気になる養育者について、連携システムは円滑であるか（守秘義務に留意）
 - ・両センターについての他ゾーンでの広報について、課題はあるか、改善向上策はなにか
- これらをPDCAサイクルで検証し、成果を事業に反映させていきます。

②館外の子育て支援機関、その他の施設、団体との連携

子育て支援を「連携」という視点で見ると、3つの分類が考えられます。

ひとつには、多様な子育ての悩みに対する**テーマ別支援**、これは、関係団体もっているリソースを積極的に活かして連携しながら事業の中に組み込むのが効果的であろうと思います。

次に、その悩みや対応がどの段階にあるのか、という支援のプロセス上の観点（**プロセス別支援**）があります。子育ての悩みに対して、予防的に支援すれば全体状況がよくなる段階なのか（予防的段階）、子育て状況の困難度がすすみかけているが、適切な資源に出会うことで解消される段階か（第2次予防）、すでに、子育て状況が深刻化しており（第3次の段階）、各機関の複数の資源を投入して、適切な支援のソーシャルワークを必要とする段階なのか。このプロセスの視点でいうなら、子どもの館と子育て支援プラザは、多様な資源に出会える予防的段階に位置する施設であると言えます。

さらに、3つめの視点として、支援の対象による分類（**対象別支援**）があります。支援が個人に向かってなのか、グループに対してか、地域そのものに対してか。当然、この3つの対象すべてを視野に入れてこそ、求められている「地域子育て支援」になります。

この3つの分類をもとに、関係団体との連携を考えてみたいと思います。

多様な悩み	関係団体等	連携事業
友だちがほしい	市民センター、フリースペース、サークル 拠点保育所 NPO	企画、イベント情報の共有。 支援プラザから身近な地域へつなげる。
子育てスキルを高めた い！	様々な育ちあいのグループ 拠点保育所（子育て支援センタ ー） 生活支援課 食生活改善推進員 NPO（おもちゃライブラリー、 読み聞かせグループなど）	食育や、しつけ、子どもとの遊び、発達の 理解など、適切な講師を紹介したり、講座 を企画。 また、研修の相互協力。
リフレッシュしたい！	保育所の一時保育 ムーブこどもの部屋 ほっと子育てふれあいセンター ドンナマンマ、hug などタウン 誌 NPO	一時預かりの情報共有。 民間の子連れでも行ける場所（美容院）の 情報提供など。
仕事との両立が大変！	男女共同参画推進部 ファミリーフレンドリー企業 拠点保育所	共催で、両立支援の様々な講座の企画。 両立している先輩の話をきく、社内の子育 てしやすい環境づくりのノウハウの共有 など。
再就職支援	男女共同参画推進部 ムーブ 労働福祉事務所	キャリアカウンセリング、キャリアデザイ ンなどの相談、情報提供、講座企画。
遊び場が少ない	各区まちづくり推進課 生活支援課	遊び場マップ、子どもにやさしい公園の紹介
自然にふれたい	山田自然緑地 環境ミュージアム いとうづの森	環境教育ワークショップ（乳幼児向け、学 童向け） いとうづの森インタープリターによる 絵本ワークショップ等。
子どもと親の表現力、文 化環境の醸成	芸術劇場 NPO(子ども劇場、創を考える 会ほか)	遊びと表現のワークショップ（乳幼児親子 向け、学童向け） コミュニケーション力講座
その他	国際交流協会	世界の多様な子育て方法を知る。

プロセス別支援

課題	関係団体等	考えられる連携事業
予防的支援	市民センター 児童館 拠点保育所 サークル、F S	日常的な居場所づくりのしかけ 様々なノウハウの共有 子育て資源情報の提供 第3層の地域との人材、ソフトの循環
第2次レベル 子育てが困難で、なんらかの資源を必要とする状況	生活支援課 子ども家庭相談コーナー まちづくり推進課 生涯学習係、地域振興係 障害福祉ボランティア協会 市民活動サポートセンター	子ども家庭相談コーナーや、生活支援課への連携 アトピーや、特別な支援を要する子ども、不登校や親の多様な問題に対して自助グループ情報の提供
第3次レベル しっかりとしたケースワークレベル	子ども総合センター 子ども家庭相談コーナー 生活支援課 ムーブ 療育センター 障害福祉センター	虐待の相談 DVの相談 発達相談 特別支援教育の情報提供 自助グループの支援

対象別支援

課題	関係団体等	考えられる連携事業
個人への支援 グループ支援	テーマ別、プロセス別支援へ 市民活動サポートセンター 青少年ボランティアセンター 各区生活支援課 市内NPO 市外NPO 子育てネットワーク研究会 こころの子育てインターねっと 関西 市内各大学	・地域づくり専門家派遣事業(地域振興課)のコーディネート ・サークル交流会(運営の工夫の共有) ・サークルリーダーのための講座 ・サークルやネットワーク運営のノウハウの情報提供 ・先駆的な全国の取り組みを紹介 学生ボランティアとの交流。若い世代の子育て観を育む。子どもは学生との遊びを楽しむ。
地域への支援	地域振興課 まちづくり推進課 地域振興係 生涯学習係 市民センター館長 生涯学習課 生涯学習コーディネーター 子育てサポーター 主任児童委員連絡会 各区子育て支援センター 企業	・まちづくり協議会に子育て支援がねづくよう働きかける。 ・生涯学習コーディネーターや、子育てサポーターのバックアップ ・館長研修を支援プラザでの実施するよう試みる。 ・主任児童委員との共催の研修 ・地域の子育て支援連携モデルの発信、共有